

121 豆腐にかすがい

何の効果も反応もないことのとたとえ。

122 遠い親戚より近くの他人

いざというとき頼りになるのは、遠くにいる親戚ではなく、日ごろ付き合いのある近所の他人だということ。

123 時は金なり

時間はお金と同じように貴重なものだから、無駄に使ってはいけない。

124 所変われば品変わる

その土地によって言葉や習慣は違うものだということ。

125 年寄りの冷や水

年寄りが、年齢に合わない無理や無茶をすることのたとえ。

126 隣の花は赤い

他人の物は自分のものよりもよく見えて、うらやましく思う。

127 取らぬ狸の皮算用

まだ決まっていないことを当てにして、計画を立てたり、利益を考えたりすること。

128 どんぐりの背比べ

どれも似たようなものばかりで、大した違いがないこと。

129 飛んで火にいる夏の虫

自分から進んで危険を冒し、災難を招くこと。

130 鳶が鷹を生む

平凡な親が、才能のある優れた子どもを産むことのとたとえ。

131 鳶に油揚げをさらわれる

大切なもの、または自分のものになると思ったものを、いきなり横からうばわれること。

132 長いものには巻かれろ

権力のある人や目上の人には、逆らうよりも従ったほうが得だということ。

133 泣きつ面に蜂

不運なことの上に、さらに不運なことが続けて起こること。

134 泣く子と地頭には勝てぬ

理屈の通じない者や権力者などには、いくらこちらが正しくても勝てないから、従うしかないということ。

135 なくて七癖

どんな人でも、多かれ少なかれ、何か癖をもっているということ。

136 情けは人のためならず

人に親切にすると、巡り巡って自分にいい報いがかえってくるので、自分のためにもなるということ。

137 七転び八起き

何回失敗してもくじけずに、勇気を出して立ち上がること。

138 怠け者の節句働き

普段怠けている者ほど他人が休んでいるときに限って忙しそうにするものだ。

139 生兵法は大怪我の元

中途半端な知識・技術はかえって失敗のもとである。

140 習うより慣れろ

物事は、人や本から教わるよりも、体験として実際に経験した方が身につく。